緑風会　小島 巧也　議員

①包括予算配分方式について
②財政調整基金について

質問①　平成17年度予算編成から導入された包括予算配分方式は2年を経過し、導入した効果や課題など検証されたのか。また、来年度の予算編成の方針の考え方はどうか。

答弁①　本方式は財源の有効配分の方策として導入した。時期的に三位一体改革など、地方税財政制度の変貌期と重なり、3ヵ年の配分枠にこだわらず枠の変更を行なうなど柔軟な対応を行なってきた。来年度以降も本方式を継続すると考えているが、財政見通しの予測が難しく、平成20年度は、単年度の枠配分方式行なう考えでいる。

質問②　一般家庭での「貯金」の役割をもつ財政調整基金が年々増加してきている。適正な積立額はどれほどか。また来年度への予算反映はどうするのか。

答弁②　鈴鹿市は税収の年度間変動が大きく税収の変動を補完するための財源としてこの基金は有効であり、基金の残高は平成18年度末で109億円余りとなった。適正な規模についての指針はないが、60億円を下回らないよう財政運営を行なっている。来年度の予算については臨時的な大規模事業等に活用していきたい。また特定目的基金へのシフトも一つの手立てと考えている。

すずか倶楽部　中西 大輔　議員

①平成18年度行政評価について
②NTT西日本研修センタ跡地利用に関して

質問①　18年度行政評価について、進捗状況、評価結果の公表を早くできないか、予算との連動は。意見として、事業事前評価の導入と、事業の中間評価の実施。情報弱者を生まないために、公的施設での情報提供のあり方を再検討すべきである。

答弁①　18年度内に評価ができるよう、本年2月中旬から年度内評価を実施、7月には一部の主管課対象に研修会を開き、143の単位施策の評価を実施している。単位施策評価の精度を高めるため、事務事業評価だけの公表を早めることは難しい。

質問②　NTT西日本研修センタ跡地利用に関し、来年4月の開校を前に、大学側とどのような連携をとっているのか。活用法の提案をしても良いのではないか。また、現在の状況についての説明を。意見として、現在中断している桜祭りの開催を、市は大学に提案、協議してはどうか。市は跡地土地利用転換計画の再評価と再検討をするべきである。

答弁②　大学施設整備と関わる事項については、適宜確認、大学側に提案して連携を考えている。NTT西日本から土地利用に関して、7月に市に対して提案したいと申し出がある。市は地権者NTTの判断を尊重する。

無所属クラブ　杉本 信之　議員

①農業と環境について

質問①　農業生産において生まれる野菜や花木や、農地そのものが環境への貢献がある反面、農業や肥料分を含んだ水が地下水や川や海に流れ込み環境悪化を招いている場合もある。農のある風景を享受している市民と農家が一緒になって農道や河川の草刈や簡易な補修をする事で、地域の愛着が増し農業への理解も深まると思う。そして、減化学肥料や減化学農薬の営農活動を進め、更には有機農業を推進して行く事が大切である。また、循環型社会を構築して行く上では生ゴミの堆肥化が必要と思われるが、これらについてどのように考えているか。

答弁①　食の安全や住環境には市民の関心も高い。環境に優しい農業や農産物に対する生産者と消費者の理解を計り、市民の生活環境を良好に保つ「多面的機能」を有する農地の保全及び有効利用について、積極的に取り組んで行く。エコファーマーは市内に61農家が認定されており。「みえの安心食材表示制度」や「みえの安心食材マップ」の市内版をもっとPRしていく。平成18年12月に「有機農業の推進に関する法律」が成立しているので、本市としても環境保全型農業を積極的に推進して行きたい。生ゴミの堆肥化は引き続き検討課題として行く。